



## 2019年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年3月7日

上場会社名 日本ビューホテル株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6097 URL <https://www.viewhotels.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 由明  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 矢島 学 TEL 03-5828-4429 (代表)  
 四半期報告書提出予定日 2019年3月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年4月期第3四半期の連結業績（2018年5月1日～2019年1月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年4月期第3四半期	16,319	0.3	657	3.8	623	1.2	△1,390	—
2018年4月期第3四半期	16,270	6.0	633	△48.0	616	△48.9	271	—

(注) 包括利益 2019年4月期第3四半期 △1,429百万円 (—%) 2018年4月期第3四半期 277百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年4月期第3四半期	△147.42	—
2018年4月期第3四半期	28.87	28.73

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年4月期第3四半期	28,750	11,021	38.3
2018年4月期	31,046	12,652	40.8

(参考) 自己資本 2019年4月期第3四半期 11,021百万円 2018年4月期 12,652百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年4月期	—	0.00	—	22.00	22.00
2019年4月期	—	0.00	—		
2019年4月期（予想）				22.00	22.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2019年4月期の連結業績予想（2018年5月1日～2019年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,400	0.5	600	△2.8	500	△16.9	△1,500	—	△159.05

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 2019年4月期の業績予想の1株当たり当期純利益は、ストック・オプション行使分（6,000株）を含めた期中平均株式数により算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年4月期3Q	9,730,425株	2018年4月期	9,724,425株
② 期末自己株式数	2019年4月期3Q	297,600株	2018年4月期	297,600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年4月期3Q	9,430,426株	2018年4月期3Q	9,412,206株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(第3四半期連結累計期間)	6
(四半期連結包括利益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善による個人消費の回復などにより、緩やかな回復基調が続きました。一方、相次いで発生した自然災害の影響、人手不足やそれに伴う労務コストの上昇、米国の通商政策に伴う貿易摩擦の影響、中国や新興国の景気減速などが懸念され、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

ホテル業界におきましては、新規ホテルの開業や民泊の広がりなどによって競争環境が激化し、また、自然災害による影響が一部地域であったものの、政府の観光立国推進に向けた政策を背景に訪日外客数は引き続き増加し、日本政府観光局(JNTO)によると、2018年の訪日外客数は3,119万人となり、統計開始以降で過去最高を更新するなど、宿泊部門を中心に概ね堅調に推移しております。

このような経営環境の下、当社グループは、第2次中期経営計画に基づき、長期持続的な成長と事業基盤の拡大のための取組みを進めております。当第3四半期連結累計期間では、2018年5月に大阪ビューホテル本町を開業し、当社グループとして関西地区への初進出を果たしました。また、既存事業所の更なる安全・安心の追求として、大型機械・設備の計画的な更新を進めている他、今後の新規ホテル開業による事業基盤の拡大も見据え、中長期的に安定した労働力を確保することを目的として、人材の登用、育成を強化するための人事制度改革、働き方改革への準備、外国人労働者の活用等に取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は高崎ビューホテルを前連結会計年度に事業譲渡した影響や遊園地事業の減収などがあったものの、浅草ビューホテルが前連結会計年度に行った改修工事に伴う22日間の全館クローズといった施策上の影響もなくフル稼働したことや大阪ビューホテル本町の新規開業があったことなどにより、16,319百万円(前年同期比0.3%増)となりました。営業利益は大阪ビューホテル本町の開業費用の計上や人件費、販売費、一般管理費の増加などがあったものの、売上総利益の増加により、657百万円(前年同期比3.8%増)、経常利益は623百万円(前年同期比1.2%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は連結子会社である那須興業株式会社が保有する固定資産の減損損失を特別損失に計上したことなどにより、1,390百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益271百万円)となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

セグメントの 名称	売上高			セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)			減価償却前営業利益(*)		
	前第3四 半期連結 累計期間 (百万円)	当第3四 半期連結 累計期間 (百万円)	前年 同期比 増減額 (百万円)	前第3四 半期連結 累計期間 (百万円)	当第3四 半期連結 累計期間 (百万円)	前年 同期比 増減額 (百万円)	前第3四 半期連結 累計期間 (百万円)	当第3四 半期連結 累計期間 (百万円)	前年 同期比 増減額 (百万円)
ホテル事業	13,926	14,095	169	529	671	141	1,604	1,765	161
施設運営事業	1,341	1,347	5	34	39	5	51	56	5
遊園地事業	1,078	940	△137	62	△62	△125	140	13	△126
合計	16,346	16,383	37	626	648	21	1,795	1,835	39
調整額	△75	△63	12	6	8	2	6	8	2
連結数値	16,270	16,319	49	633	657	23	1,802	1,844	41

(\*) 減価償却前営業利益＝営業利益＋減価償却費

## ①ホテル事業

ホテル事業では、2018年5月に大阪ビューホテル本町を開業し、事業基盤の拡大を図りました。営業部門別の状況としては、客室部門では、前連結会計年度に行った札幌ビューホテルでの客室61室の新設増室が業績に大きく寄与しました。また、引き続き拡大傾向にある訪日外国人旅行者の集客に注力した結果、業績は好調に推移いたしました。一方、自然災害の影響により、大阪ビューホテル本町、札幌ビューホテル大通公園においては、集客、利用単価ともに当初の計画より業績を押し下げる結果となりましたが、当第3四半期会計期間においては回復基調で推移しております。婚礼・宴会部門では、前連結会計年度に行った婚礼・宴会の売上構成比が高かった高崎ビューホテルの事業譲渡が減収の要因となりました。また、宴会は堅調に推移いたしました。婚礼は前連結会計年度後半からの集客減少の影響により苦戦いたしました。婚礼の営業に関しては、そのリソースを浅草、成田、秋田の3事業所に集中させ、

業績の回復を図っております。レストラン他部門は、前連結会計年度に実施した浅草ビューホテルや札幌ビューホテル大通公園のレストランリニューアル効果などにより、順調に推移いたしました。経費面では、人手不足への対応として、安定した労働力の確保のために採用を強化したため、外注人件費は低減したものの、業務委託料が増加したこともあり、人件費が増加しております。

これらの結果、売上高は14,095百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は671百万円（前年同期比26.8%増）となりました。

### ②施設運営事業

施設運営事業では、ぎょうけい館等のリゾート施設では、団体の集客が伸び悩みましたが、インターネットでの宿泊プランの更なる充実を図り、個人の集客を強化いたしました。

これらの結果、売上高は1,347百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は39百万円（前年同期比14.9%増）となりました。

### ③遊園地事業

那須りんどう湖 LAKE VIEWでは、ビューホテル本社営業部の管轄・機能を拡大して、団体を中心とした集客を強化するとともに、社外コンサルタントを導入し、新アトラクションの導入や新たなPR・広告手法を取り入れ、リピーターを増やす戦略・戦術で立て直しを図っております。これらの施策は、販売料金体系の見直しも含め、将来に向けた抜本的な利益体質への転換を目的として実行しておりますが、各施策が十分な成果につながらず、天候の影響などもあり、集客に苦戦いたしました。また、広告宣伝費など一部販管費を当第2四半期累計期間に集中的に投下しておりますが、当第3四半期会計期間の各月において売上高が前年同期比で増加するなど、各施策の効果も表れてきております。

これらの結果、売上高は940百万円（前年同期比12.8%減）、営業損失は62百万円（前年同期は営業利益62百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産

当第3四半期連結会計期間末における資産の合計は、28,750百万円（前連結会計年度末31,046百万円）と、2,296百万円減少いたしました。

うち流動資産は、4,998百万円（同5,081百万円）と、82百万円減少いたしました。これは、主にその他に含まれる未収消費税の減少によるものであります。

固定資産は、23,751百万円（同25,964百万円）と、2,213百万円減少いたしました。これは、主に減損損失の計上による有形固定資産の減少によるものであります。

### ②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債の合計は、17,728百万円（前連結会計年度末18,393百万円）と、664百万円減少いたしました。

うち流動負債は、5,010百万円（同5,229百万円）と、218百万円減少いたしました。これは、主に未払消費税等の増加があったものの、買掛金の減少によるものであります。

固定負債は、12,718百万円（同13,164百万円）と、445百万円減少いたしました。これは、主にリース債務の減少によるものであります。

### ③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の合計は、11,021百万円（前連結会計年度末12,652百万円）と、1,631百万円減少いたしました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上および剰余金の配当の支払いによって減少があったことによるものであります。この結果、自己資本比率は、38.3%（前連結会計年度末比2.4ポイント減）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、2018年6月8日の「平成30年4月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想を本資料において修正いたしました。なお、当該予想数値に関する詳細につきましては、2019年3月7日付で別途開示しております「特別損失（減損損失）の計上および業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,749	3,583
売掛金	977	846
貯蔵品	207	194
未収還付法人税等	157	3
その他	989	371
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	5,081	4,998
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	13,079	12,573
機械装置及び運搬具(純額)	266	199
工具、器具及び備品(純額)	495	376
土地	5,611	4,821
建設仮勘定	396	20
リース資産(純額)	4,735	4,453
その他(純額)	0	—
有形固定資産合計	24,585	22,445
無形固定資産	46	38
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	56	44
長期貸付金	94	94
繰延税金資産	393	290
その他	889	939
貸倒引当金	△101	△100
投資その他の資産合計	1,333	1,267
固定資産合計	25,964	23,751
資産合計	31,046	28,750

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	904	276
1年内償還予定の社債	165	132
1年内返済予定の長期借入金	1,922	1,912
リース債務	326	375
未払金	1,244	1,366
未払法人税等	2	101
未払消費税等	58	466
賞与引当金	326	155
ポイント引当金	3	—
その他	274	223
流動負債合計	5,229	5,010
固定負債		
社債	88	38
長期借入金	7,632	7,632
リース債務	4,879	4,574
退職給付に係る負債	224	176
資産除去債務	43	42
長期未払金	164	123
その他	131	130
固定負債合計	13,164	12,718
負債合計	18,393	17,728
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,791	2,794
資本剰余金	1,711	1,714
利益剰余金	8,357	6,760
自己株式	△408	△408
株主資本合計	12,452	10,860
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12	4
退職給付に係る調整累計額	191	167
繰延ヘッジ損益	△3	△11
その他の包括利益累計額合計	200	160
純資産合計	12,652	11,021
負債純資産合計	31,046	28,750

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2018年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)
売上高	16,270	16,319
売上原価	3,825	3,517
売上総利益	12,444	12,802
販売費及び一般管理費	11,811	12,145
営業利益	633	657
営業外収益		
受取補償金	56	—
受取保険金	—	36
その他	55	69
営業外収益合計	112	106
営業外費用		
支払利息	109	100
支払手数料	1	—
支払補償費	—	29
その他	18	9
営業外費用合計	129	139
経常利益	616	623
特別利益		
固定資産売却益	23	—
投資有価証券売却益	3	—
特別利益合計	27	—
特別損失		
固定資産除却損	262	93
減損損失	—	1,727
その他	—	0
特別損失合計	262	1,822
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	381	△1,198
法人税、住民税及び事業税	21	70
法人税等調整額	88	121
法人税等合計	110	191
四半期純利益又は四半期純損失(△)	271	△1,390
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	271	△1,390



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2018年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	271	△1,390
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	△8
退職給付に係る調整額	△4	△24
繰延ヘッジ損益	—	△7
その他の包括利益合計	6	△39
四半期包括利益	277	△1,429
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	277	△1,429

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結貸借対照表関係)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年5月1日至2018年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,905	1,286	1,077	16,270	—	16,270
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20	54	0	75	△75	—
計	13,926	1,341	1,078	16,346	△75	16,270
セグメント利益	529	34	62	626	6	633

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。
  - (2) セグメント利益の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。
- 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年5月1日至2019年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,084	1,295	939	16,319	—	16,319
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	51	1	63	△63	—
計	14,095	1,347	940	16,383	△63	16,319
セグメント利益又は損失	671	39	△62	648	8	657

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。
  - (2) セグメント利益又は損失の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。
- 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「遊園地事業」セグメントにおいて1,528百万円、「ホテル事業」セグメントにおいて199百万円の減損損失を計上しております。